

最高裁判所長官祝辞

平成二十八・七・十五
第六十四回全国調停委員大会

第六十四回全国調停委員大会の開催に当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。本年、ここ名古屋で開催されるこの大会は、平成二十五年の大阪大会以来はじめて東京を離れた地で開催されるものとお聞きしますが、地元の調停協会を中心とする開催の準備に携わられた方々の御尽力により、本日、大会当日を迎えられました。心からお喜び申し上げます。

日本調停協会連合会は、昭和二十七年の創設から今日に至るまで、調停制度の発展のため、様々な活動が続けてこられ、調停制度が、我が国の社会に適った柔軟な紛争解決手段として、利用者である国民の信頼を得、昨今は国際的な紛争についてその解決機能を高め、てきているなど、その充実強化に寄与してこられました。このようから制度の運用と発展を支えてこられた関係各位の御尽力に対し、心から敬意を表します。また、後ほど御披露が予定されているようです。調停委員として永年にわたり御功績を挙げられた多数の方々に対し、藍綬褒章の授与が行われました。調停制度の拡充と発展に

多大な貢献をしてこられた方々に、この場をお借りして、深く謝意を表すとともに、重ねてお祝いを申し上げます。

近年、調停制度の利用者からは、これまで以上に公平で透明性のある手続、納得性の高い解決が求められております。今後も、調停制度が魅力的で利用しやすい紛争解決手段として国民の高い信頼を得ていくために、互譲による紛争の円満妥当な解決という調停制度の精神を生かしつつ、利用者への期待に適切に答えられるよう柔軟な運用を目指していかなければなりません。

先般、熊本地方を中心とする一連の地震によって、広範囲にわたって大きな被害が発生するなど災害が後を絶たない状況となっておられますが、東日本大震災の経験や災害を踏まえて、復旧・復興に向けた取り組みの過程で生じる様々な法的問題に迅速かつ柔軟に対応できるよう

な体制が求められています。裁判所も、調停制度の一層の充実と発展、強化のために力を尽くし、このような時代の要請にこたえていく所存です。調停委員の皆様

方におかれましても、引き続き御協力をいただけますようお願いを
申し上げます。

終わりに、日本調停協会連合会の関係者の皆様のますますの御発
展を祈念して、私の祝辞といたします。

平成二十八年七月十五日

最高裁判所長官

寺田逸郎